

弦楽合奏団

エテルニータ

第8回コンサート

 Eternita
弦楽合奏団

カトリック松が峰教会

2011年9月24日(土) 午後4:00 開演

プログラム

サンマルティーニ シンフォニア ト長調

G.B.Sammartini Sinfonia in G

パーセル 「アブデラザール」組曲

H.Purcell Abdelazer, or the Moor's Revenge

ジェミニアーニ 合奏協奏曲「ラ・フォリア」

F.Geminiani Concerto grosso "La Follia"

ヘンデル オルガン協奏曲 変ロ長調 op.4-6

G.F.Handel Konzert für Orgel und Orchester op.4-6 B-Dur

オルガン / 松沼房子

アルビノーニ アダージョ

T.Albinoni Adagio in sol minore per Arche e Organo

レスピーギ リュートの為の古代舞曲とアリア 第3番

O.Respighi "Antiche danze ed arie per Liuto" III Suite

プロフィール

松沼 房子 Fusako MATSUNUMA

東京藝術大学音楽学部器楽科（パイプオルガン専攻）卒業。



眞篠俊雄、島田麗子、秋元道雄、ジャン・メルオーの各氏に師事。

また、音楽理論を高田三郎氏に、グレゴリオ聖歌をポール・アヌイ氏に師事する。

各地の教会・コンサートホール等で、ソロ、アンサンブル・合唱・オーケストラとの共演など幅広く演奏活動を行っている。後進の指導にも広くあたり、中でも那須トラピスト修道院では長年にわたってオルガン及び典礼聖歌の指導にあたっている。

聖イグナチオ教会（麹町カトリック教会）、カトリック田園調布教会などのオルガニストを経て、カトリック松が峰教会オルガニストとして現在に至る。

日本オルガニスト協会会員、日本オルガン研究会会員。

曲目解説

サンマルティーニ 「シンフォニア ト長調」

ジョヴァンニ・バッティスタ・サンマルティーニ (1700 ~ 1775) は、バッハやヘンデルよりも15才程若いイタリアの作曲家です。グルックの師であり、14才のモーツァルトがミラノに到着したとき、その才能を賞賛し援助の手をさしのべたことでも知られています。

70曲ほどの交響曲を残していますが、ハイドンの最初の交響曲の20年前に書かれたこのト長調は、交響曲の先駆的作品として貴重なものと言えるでしょう。

I. アレグロ II. グラーヴェ III. アレグロ・アッサイ IV. メヌエット

パーセル 「アブデラザール」組曲

ヘンリー・パーセル (1659頃 ~ 1695) は、イギリス・バロック音楽最大の作曲家で、36才の短い生涯の間に膨大な作品を残しました。晩年に多くの劇のための付随音楽を書きましたが、「アブデラザール」もその中の一つです。

序曲~ロンドー~エア~エア~メヌエット~エア~ジグ~ホーンパイプ~エアの9曲を組曲とし、2曲目のロンドーはプリテンの「青少年のための管弦楽入門」という作品の主題として用いられ、とても有名になりました。

ジェミニアーニ 合奏協奏曲「ラ・フォリア」

フランチェスコ・ザヴェリオ・ジェミニアーニ (1687 ~ 1762) は、イタリア後期バロックの優れた作曲家です。コレッリに師事し、「ヴァイオリン奏法」「伴奏法」などの貴重な著書を残しました。作風は同時代のヴィヴァルディよりも古くて厳格なスタイルです。

コレッリの「ヴァイオリン・ソナタ 作品5」の終曲「ラ・フォリア」を、ジェミニアーニが合奏協奏曲に編曲したのがこの作品で、主題の後に23の変奏がくり広げられています。

ヘンデル 「オルガン協奏曲 変ロ長調 op.4-6」

ゲオルグ・フリードリヒ・ヘンデル (1685 ~ 1759) は晩年イギリスに渡り、それまで力を注ぎ続けたオペラに替わり、オラトリオの分野で成功を収めていきます。オペラに比べて動きのないオラトリオの地味さをカバーするため、曲頭や幕間に自らオルガンをひき聴衆の喝采を浴びました。

こうして生まれた曲を、のちにまとめて出版したものが、作品4と7に含まれる12曲のオルガン協奏曲です。この第6番は、はじめはハーブのために書かれたと言われており、「ハーブ協奏曲」として耳にする機会が多い名曲です。

I. アンダンテ・アレグロ II. ラルゲット III. アレグロ・モデラート

アルビノーニ 「アダージョ ト短調」

ヴィヴァルディと同じ時代に、ヴェネツィアで活躍したトマソ・アルビノーニ (1671 ~ 1750) は、優雅で流麗な美しさをもった協奏曲やソナタを数多く残しました。

イタリアの音楽学者ジャソットが、ドレスデン国立図書館で発見したアルビノーニのトリオ・ソナタの断片を復元したこの「アダージョ」は、その大半がジャソットの創作によるものです。さらに、その断片そのものも最近では偽作であると言われていますが、そんなことを忘れさせるほどの美しさをもったとても人気の高い作品となっています。

レスピーギ 「リュートの為の古代舞曲とアリア 第3番」

若い頃リムスキー・コルサコフに学び、華やかな管弦楽法を身につけたオットリーノ・レスピーギ (1879 ~ 1936) は、「ローマの噴水」「ローマの松」といった色彩的なオーケストラ曲で一躍有名になりました。

また、中世からバロック時代に至る古い音楽を研究し、その成果を取り入れた作品も数多く残しました。この曲も、16 ~ 17世紀のリュート曲を弦楽合奏のために作り直したもので、ヴィオラ奏者でもあったレスピーギの弦楽器に対する博識が巧みに生かされた作品となっています。

I. イタリアーナ II. 宮廷のアリア III. シチリアーナ IV. パッサカリア

(山田 栄二)

弦楽合奏団エテルニータ メンバープロフィール

ヴァイオリン

青柳 敬子

宇都宮短期大学卒業。
増田貴子、星野和夫、吉村成司、鈴木鎮一の各氏に師事。
才能教育研究会宇都宮支部ヴァイオリン科指導者。スズキアンサンブル「弦」メンバー。

川俣 洋子

国立音楽大学卒業、同大学大学院修了。
岩本政藏、井上武雄、鷺見健彰、鷺見四郎、石橋洋子、梅津南美子の各氏に師事。
室内楽を青木十良氏に師事。
フリーの演奏家としてオーケストラ、室内楽等で活動の他、後進の指導にあたっている。
アンサンブル・プリランテメンバー。

小松崎 倫子

武蔵野音楽大学卒業。宇都宮大学大学院修了。
故 鈴木史子、吉村成司、萩原耕介の各氏に師事。栃木県交響楽団団員。宇都宮市立陽東中学校教諭。

篠原 香乃子

武蔵野音楽大学卒業。
モダンヴァイオリンを、故 永岡国雄、吉村成司、星野和夫、掛谷洋三、桐山建志の各氏に、バロックヴァイオリンを桐山建志氏に師事。
後進の指導にあたる他、バロック・ヴァイオリン デュオ「Due Luce」等、フリーの奏者として活動中。

土屋 恵子

上野学園大学卒業。
増田貴子、吉村成司、竹内茂の各氏に師事。
上野学園ヴァイオリン教室講師を経て、現在自宅にて後進の指導にあたっている。

福富 恵子

宇都宮短期大学卒業。
吉村成司、鷺見健彰の各氏に師事。
柿の木幼稚園ヴァイオリン講師、後進の指導にあたっている。

山田 美津子

東京都立大学卒業。
ヴァイオリンを星野和夫氏に師事。

チェロ

荒川 育子

国立音楽大学卒業。
後進の指導にあたっている。
室内合奏団、オーケストラ等でも活動中。

コントラバス

増山 一成

東京芸術大学卒業。ウィーン国立音楽大学に留学。
沖不可止、今村清一、江口朝彦、小野崎充、ルートヴィヒ・シュトライヒャーの各氏に師事。
読売日本交響楽団コントラバス奏者、東京ハルモニア室内オーケストラコントラバス奏者、宇都宮短期大学附属高校音楽科非常勤講師。

ゲスト首席チェリスト

諸岡 範澄

国立音楽大学附属高等学校、国立音楽大学器楽科卒業。
1993年ブルージュ国際古楽コンクール・アンサンブル部門第一位受賞(Trio van Beethoven)。
バッハ・コレギウム・ジャパン、有田正広、P・ヘレヴェッヘ、A・ヒルスマ、クイケン兄弟ら、内外の演奏家と数多くの演奏会、CDレコーディングに参加。モダン・チェロ奏者としてもソロ、室内楽等の分野で活躍するほか、作曲も手がける。
1999年第13回古楽コンクール・山梨の審査員を務める。
韓国国立ソウル芸術大学におけるバロック音楽セミナー講師として、また漢陽大学学生による「コレギウム・ムジクム・漢陽」の指導者として招かれ、毎年訪韓している。
東京五美術大学管弦楽団、オーケストラ・ムジマ、東京女子大学カレッジストリングス指揮者。ひたちなか楽友会講師。オーケストラ・シンポジウム音楽監督。

団友

ヴィオラ 中村 淑江

エキストラ

ヴィオラ 星 由紀子 諸岡 涼子

エテルニータ顧問・解説

山田 栄二

1948年宇都宮市に生まれる。宇都宮短期大学作曲科卒業。
作曲を石黒脩三氏に師事。同短大と同附属高校の講師を務めた後、1984年から作曲、編曲活動に専念。
作品にオペラ「ゆきと鬼んべ」「殺生石物語」「歌法師運生」「那須野巻狩り」「小山物語」、オペレッタ「不思議の国のアリス」、室内楽曲「博物誌」「動物園の情景」「ファーブル昆虫記」、大正琴と語り手のための「手無し娘」など多数。
1999年県文化奨励賞受賞。

ステージマネージャー

石田 淳一